

名古屋市長 河村たかし 様

名古屋市総合リハビリテーションセンターの 医療と福祉の連携を強化し、機能の充実を求める署名

＜要請趣旨＞

名古屋市総合リハビリテーションセンター（以下「リハセン」という）は、1981年の国際障害者年を機に市で建設が検討され、1989年に完成し、10月に名古屋市総合リハビリテーション事業団（以下「事業団」という）に管理・運営を委託して事業が開始されました。以来35年にわたり、相談から医療・訓練を経て、社会復帰にいたるまで障害者の総合的で一貫したリハビリテーションサービスを提供する県下唯一の施設として、その役割を果たしてきました。

しかし突然、2024（令和6）年度限りで、附属病院をなくし、介護保険事業を廃止する条例が2023年9月に可決され、附属病院は名古屋市立大学が引き継ぐことになりました。

附属病院が市大化されることだけが先行して決まり、新しいリハセンの全体像はいまだに明らかにされていません。リハセンを運営する法人が、医療部門と福祉部門の二つに分かれれば、スタッフ・職員が分断され、医療と福祉の連携をとることが困難になります。介護保険事業は、通所リハで失語症の言語訓練を行うなどリハセン独自の内容があって、廃止されてしまえば訓練を受けられなくなる利用者がでてきます。このままでは、障害者の権利が守られず、市民・利用者の願いに反し、リハビリの水準やサービスが低下してしまいます。市は市民や利用者、現場の職員の意見を聞き、内容、機能を充実させるべきです。

以上の趣旨から次の項目を要請します。

＜要請項目＞

- 2025年度以降、医療と福祉の連携を現行よりも強化し、リハセンの機能を充実させてください。
- 介護保険事業を2025年度以降もリハセンで行い、内容を充実させてください。

お名前・ご住所の個人情報は、請願以外には使用いたしません。

氏名	住所

取扱団体

総合リハビリテーションセンターの市大化を考える名古屋市民の会